

途上国による地域機構として、また、アジア太平洋あるいは東アジアの地域協力の中核として、ますます注目されるようになったASEAN。近年では、ASEAN共同体の構築とアジアの中心性を目指してさまざまな新しい試みが打ち出されている。ASEANとはどのような組織なのか、そしてどのような役割をはたそうとしているのか。本書は、一九六七年の設立から現在までの歴史を辿るとともに、どこへ向かおうとしているのかを多面的に展望する、〈変わりつつあるASEAN〉の解説書である。

アジア経済研究所
IDE-JETRO

新しいASEAN

— 地域共同体とアジアの中心性を目指して —



アジアを見る眼

114

山影
進編

— 新しいASEAN
地域共同体とアジアの中心性を目指して —

山影
進編
アジア経済研究所



9784258051144



1921230012009

ISBN978-4-258-05114-4

C1230 ¥1200E

定価[本体1200円+税]

アジア経済研究所

山影
進
編

新しいASEAN

— 地域共同体とアジアの中心性を目指して —

目次

まえがき	1
------	---

略語表	9
-----	---

第一章 ASEANの歩んできた道、これから作る道

―「新しいASEAN」の浮上―	13
-----------------	----

山影 進

一 ASEANとは何か	
-------------	--

二 ASEANが成し遂げてきたこと	
-------------------	--

ASEANの機構作りとその後の停滞／大きく変わったASEAN

三 「新しいASEAN」に向けて	
------------------	--

共同体を目指すASEAN／機構の大改装を目指すASEAN／中心性を維

持しようとするASEAN

四 直面する課題

ASEANの規範はどこまで変容していくのか／ASEANを国際社会全体のなかにどう位置づけるのか

五 地域共同体とアジアの中心性を目指すASEAN

第二章 ASEAN政治安全保障共同体に向けて―現況と課題―……………47

菊池 努

一 ASEAN政治安全保障共同体の目指すもの

二 ASEAN政治安全保障共同体構想の経緯と構想実現のための行動計画
経緯／VAPの概要

三 ASEAN加盟国間の課題としてのASEAN政治安全保障共同体

安全保障共同体の形成と国内価値の共通化／非伝統的安全保障問題への共同
対処能力の強化

四 アジアの国際関係のなかのASEAN政治安全保障共同体

大國関係の変動とAPSC構想／ADMMプラス

五 課題と展望

第三章 ASEAN経済共同体に向けて―現況と課題―……………77

助川成也

一 ASEAN経済共同体と経済統合の深化

二 ASEAN経済共同体とは

ASEANが目指す経済統合の姿／AECの青写真と実施上の問題点

三 物品貿易自由化の進捗と課題

高水準のFTAになったAFTA／AFTA利用拡大に向けた手続き緩和の

取り組み

四 サービス貿易自由化の進捗と課題

サービス形態ごとの自由化と柔軟な実施方法／サービス分野の投資自由化の

進捗状況／サービス分野の投資自由化に向けた課題

五 ASEAN経済共同体実現に向けた課題と東アジア広域経済圏形成

第四章 ASEAN社会文化共同体に向けて―現況と課題―……………

III

首藤もと子

一 ASEAN社会文化共同体とは何か

二 ASEAN社会文化共同体の理念と目標は何か

比較の視点から見たASCCの特徴／ASCCの青写真採択まで／ASCC
の制度化に向けた動き

三 ASEAN社会文化共同体とASEAN「機能協力」との関連性

ASCCの教育分野の課題／ASCCの環境分野の課題／ASCCの人の移
動とくに域内の越境労働移動についての課題

四 ASEAN社会文化共同体に不可欠なASEAN市民社会の協力

ASEAN人権メカニズムのための市民社会活動／APA／SAPAとAS
EAN市民社会会議／ミャンマーの「市民社会」代表権問題

五 課題と展望

第五章 「ハブ」としてのASEAN—域外諸国との関係とその変容—……………

139

大庭三枝

- 一 ASEANⅡ「ハブ」の地域制度構造
- 二 域外諸国との関係強化と地域制度構造への参画
対話国制度とPMC／域外国主導の地域主義への懷疑／冷戦終結のインパクト／対話国の拡大／APEC設立とASEAN／ARFの形成へ
- 三 ASEANの域外関与の強化と地域制度構造の展開
危機への直面と克服／ASEAN+3／TACとFTA網／EASの発足と展開
- 四 ASEANⅡ「ハブ」の地域制度構造は不変か
ハブ構造を支えるもの／既存の地域制度構造の実効性／大国主導の可能性
- 五 ASEANとして団結することの価値は永続的か

第六章 ASEANにおける組織改革―憲章発効後の課題―……………

175

鈴木早苗

一 ASEAN憲章と組織改革

二 効率的な意思決定と合意履行を目指して

ASEANの組織構造／役割を増す首脳会議／効率的な合意履行に貢献が期待される常設機関

三 平和的紛争解決の徹底

ASEANの紛争解決の慣行と基本原則／WTOに準じた経済紛争処理手続き／政治安全保障分野の紛争をどう処理するか

四 組織改革の行方

第七章 ASEANにおける規範—論争から変容へ—……………209

湯川 拓

一 ASEANにおける規範の変容を理解するための視角

二 伝統的規範の起源と定着

主権尊重規範の必要性／規範の定着

三 規範論争の発生

欧米との論争／ミャンマーのASEAN加盟問題と域内での規範論争／「柔

軟関与」論争以後

四 伝統的規範の変容

対ミャンマー政策の硬化と共同体への志向／ASEAN憲章の策定へ／AS

EAN憲章をどう捉えるか

五 規範変容の要因とASEANにおける規範の現地点

参考文献……………245

執筆者紹介……………253

執筆者紹介（執筆順）

山影 進（やまかげ・すすむ）

東京大学大学院総合文化研究科教授

マサチューセッツ工科大学 Ph.D.

菊池 努（きくち・つとむ）

青山学院大学国際政治経済学部国際政治学科教授

一橋大学大学院法学研究科博士課程・博士（法学）

助川成也（すけかわ・せいや）

日本貿易振興機構（ジェトロ）バンコク事務所 主任調査研究員（アジア）

中央大学経済学部国際経済学科

首藤もと子（しゅとう・もとこ）

筑波大学大学院人文社会科学研究所教授

一橋大学大学院法学研究科博士課程・博士（法学）

大庭三枝（おおば・みえ）

東京理科大学工学部准教授

東京大学大学院総合文化研究科博士課程・博士（学術）

鈴木早苗（すずき・さなえ）

日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所 研究員

東京大学大学院総合文化研究科博士課程・博士（学術）

湯川 拓（ゆかわ・たく）

日本学術振興会特別研究員（東京大学東洋文化研究所）

東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得退学

新しい ASEAN

—地域共同体とアジアの中心性を目指して—

アジアを見る眼 114

2011 年 12 月 15 日発行

定価 [本体 1200 円 + 税]

編 者 やまかげ すすむ
山影 進

発行所 アジア経済研究所

独立行政法人日本貿易振興機構

千葉県千葉市美浜区若葉 3 丁目 2 番 2 〒 261-8545

研究支援部

電話 043-299-9735 (販売)

FAX 043-299-9736 (販売)

E-mail syuppan@ide.go.jp

<http://www.ide.go.jp>

制 作 ネクサスインターコム有限公司

印 刷 社会福祉法人東京コロニー コロニー印刷

落丁・乱丁本はお取り替えいたします

無断転載を禁ず

© 日本貿易振興機構アジア経済研究所 2011

ISBN978-4-258-05114-4

地中海から太平洋まで、この広くアジアと呼ばれる地帯には幾十かの国がある。その大部分は第二次世界大戦以後、古い植民地体制から脱して新興の独立国となったものである。世界の人口の半ば以上のものがここにあり、これらの新興国はそれぞれの立場を立て、建国創業の仕事に力をつくしている。

その業は果たして障害なく着々と進んでおるか。だれもがこれに対して頭をかしげるであろう。そしてだれもがアジアは「流動的である」という。

流動的とは何であるか。また何でないか。いくたの混みいった事態のなかを、一本の金の線が生々発展的に縫っているのも流動的である。経済は着々と成長し、政治は一つの体制のなかで徐々に整備されているような場合がそれである。

アジア諸国の大部分については、事態はこのように簡単ではない。もちろん、経済の場面には大きな発展・成長の芽生えはある。しかし、他面においてそれを抑制するものが力づよい。またおよそ発展や成長を考える場合、在来流行の理解によるパターンを以てするのが果たして正しいか、との疑問もでてくる。さらに政治体制については、イデオロギーの対立、複合民族国家における特殊なナショナリズムに伴う民族や種族間の闘争があつて、政治的安定はなかなか期すべくもない。独立国家の幼年期に伴う政治的、行政的未熟もまた考えられるべき大きな原因である。

こういう次第で、アジアが流動的であるとは、一つの混沌を意味するものといえようか。そしてその上に立っていかなる経済・社会・政治の体制が整いだされるであろうか。——この意味で二〇世紀後半のアジアは世界における「問題」、いな最もおおきな「問題」である。

アジア経済研究所は、まさにこの「問題」の理解に向かつて、ひたすら前進をつづけている。われわれの期するところは、まさにそれぞれの国の現実に即した精確な知識を供しよう、そしてこの大きな「問題」について静かなサービスをいたそうとするに尽きる。設立以来すでに七カ年あまり、専らそういう道を歩んできたし、今後もそれに変わりはない。このシリーズは、多くの研究や調査の報告書、現地調査を土台として、アジアについての解説書・教養書たることを目標とするものである。

一九六六年三月

アジア経済研究所 東 畑 精 一

- | | | | |
|-----|-----------------------------|---------|---|
| 105 | アジアの人口
グローバル化の波の中で | 早瀬保子 著 | 二〇〇四年三月刊 一四〇〇円＋税 |
| 104 | ガーナ 混乱と希望の国 | 高根 務 著 | 多産多死から少子高齢化、児童労働と都市化、エイズ・HIVの拡大と国際労働移動など、多様なアジアの人口問題を考察し、その将来を展望する。
二〇〇四年三月刊 一四〇〇円＋税 |
| 103 | 中国の石油と天然ガス | 神原 達 著 | 三〇年間中国の石油産業を調査してきた著者が、改革と発展を続ける石油、天然ガス産業の現状と将来を見通し、需要増大で大石油輸入国となる中国の石油安定確保政策をも論じる。 二〇〇二年二月刊 一四〇〇円＋税 |
| 102 | スラウエシだより
地方から見た激動のインドネシア | 松井和久 著 | スハルト政権崩壊前後の五年間をスラウエシ島で暮らした筆者が、激動のインドネシアを地方からの視点で捉えた臨場感あふれる観察記録。
二〇〇二年三月刊 一四〇〇円＋税 |
| 101 | 北京からの「熱点追踪」
現代中国政治の見方 | 佐々木智弘 著 | 共産党による一党支配はどのように維持されているのか北京大学、政治改革、日中関係、中国共産党の四つの舞台から、答えを探る。
二〇〇一年二月刊 一四〇〇円＋税 |
| 100 | イエメンものづくし
モノを通してみる文化と社会 | 佐藤 寛 著 | 日本とは気候も歴史も文化も言語も異なる「アラブの田舎」イエメン。そこで暮らしていると出会う奇妙なモノの数々、そんなモノどもの背景をのぞくことでイエメンの文化と社会を理解しようとする、地域研究者のフィールドノート。 二〇〇一年三月刊 一四〇〇円＋税 |
| 99 | アジア通貨危機と金融危機から学ぶ | 國宗浩三 著 | アジア通貨危機のメカニズムを解説し、その原因についての諸説を検討する。IMFの対応の問題点や、現在アジア諸国で進みつつある企業や銀行の再建についても考察する。 二〇〇一年三月刊 一四〇〇円＋税 |
| 98 | 市場発生のダイナミクス | 丸川知雄 著 | 計画経済の殻を破って市場経済がダイナミックに誕生している中国、現地で企業インタビューを通して、産業の現場から市場経済が発生するとはどういうことかを考察する。 一九九九年四月刊 一四〇〇円＋税 |

- | | | | | | | | |
|---|---|--|---|--|---|---|---|
| 113 | 112 | 111 | 110 | 109 | 108 | 107 | 106 |
| ビオレンシアの政治社会史 | インド 児童労働の地をゆく | 貧困国への援助再考
ニカラグア草の根援助からの教訓 | 社会主義後のウズベキスタン
変わる国と揺れる人々の心 | ロシア資源産業の『内部』 | 石油大国ロシアの復活 | 貧困削減と世界銀行
9月11日米国多発テロ後の大変化 | テヘラン商売往来
イラン商人の世界 |
| 若き国コロンビアの『悪魔払い』 | | | | | | | |
| 寺澤辰磨 著 | 田部 昇 著 | 加賀美充洋 著 | ティムール・
ダダバエフ 著 | 塩原俊彦 著 | 木村真澄 著 | 朽木昭文 著 | 岩崎葉子 著 |
| 「世界屈指の危険な国」『麻薬、誘拐、殺人の国』などマイナスイメージが
つきまとうコロンビア。大使として三年間を当地で暮らした筆者が、政治史、
社会史の両面からコロンビアの真実の姿を説き明かしている。二〇一
年十一月刊 一五〇〇円十税 | インドの手織りカーペット、宝飾品、伝統的染織品の生産現場には学校に
も通わずに働く幼い子ども達の写真がある。九〇年代に行ったフィールド調
査に基づきインドにおける児童労働の実態を報告し、開発論の視点から「い
ま、なぜ児童労働か」を問う。二〇一〇年一月刊 一四〇〇円十税 | 日本のODAは役に立ち、我が国の国際的な立場を強化しているのか。少額
でも成果の高い「草の根・人間の安全保障無償資金協力」をニカラグアでの
豊富な具体例と写真で解説する。二〇〇九年一月刊 九八〇円十税 | ソ連邦と社会主義という制度が崩壊した後、人々はどうのような理想や夢を
抱き、悔みを抱えているのか。国家、社会、そして家族に対する考え方は
どのように変化したのだろうか。二〇〇八年六月刊 九八〇円十税 | 世界的な関心を集めるロシアの石油・ガス産業を、政治との関係をはじ
め企業集団ごとに詳細に分析した力作。二〇〇六年一月刊
九八〇円十税 | 石油生産の回復とともに力強さを取り戻しつつあるロシア経済。サウジアラ
ビアと並ぶ世界最大の産油国であるロシアの石油について、その特質を分析
し、今後の方向を展望する。二〇〇五年三月刊 一四〇〇円十税 | 二〇〇一年九月十一日米国同時多発テロが開発のあり方にも影響し、貧困
削減が地球的な課題となった。本書は、世界銀行の貧困削減戦略を示し、
筆者の成長戦略を提案する。二〇〇四年九月刊 一一〇〇円十税 | 一〇年にわたる調査で覗いたイラン商人の世界。客あしらいや義理人情な
ど、商売の極意を彼ら自身の言葉で綴る。宗教や政治の本では決して読め
ない生身のイランが見えてくる。二〇〇四年七月刊 一四〇〇円十税 |